

# コスモ石油(株) 第3次連結中期経営計画 2008年度上期進捗状況と今後の方針

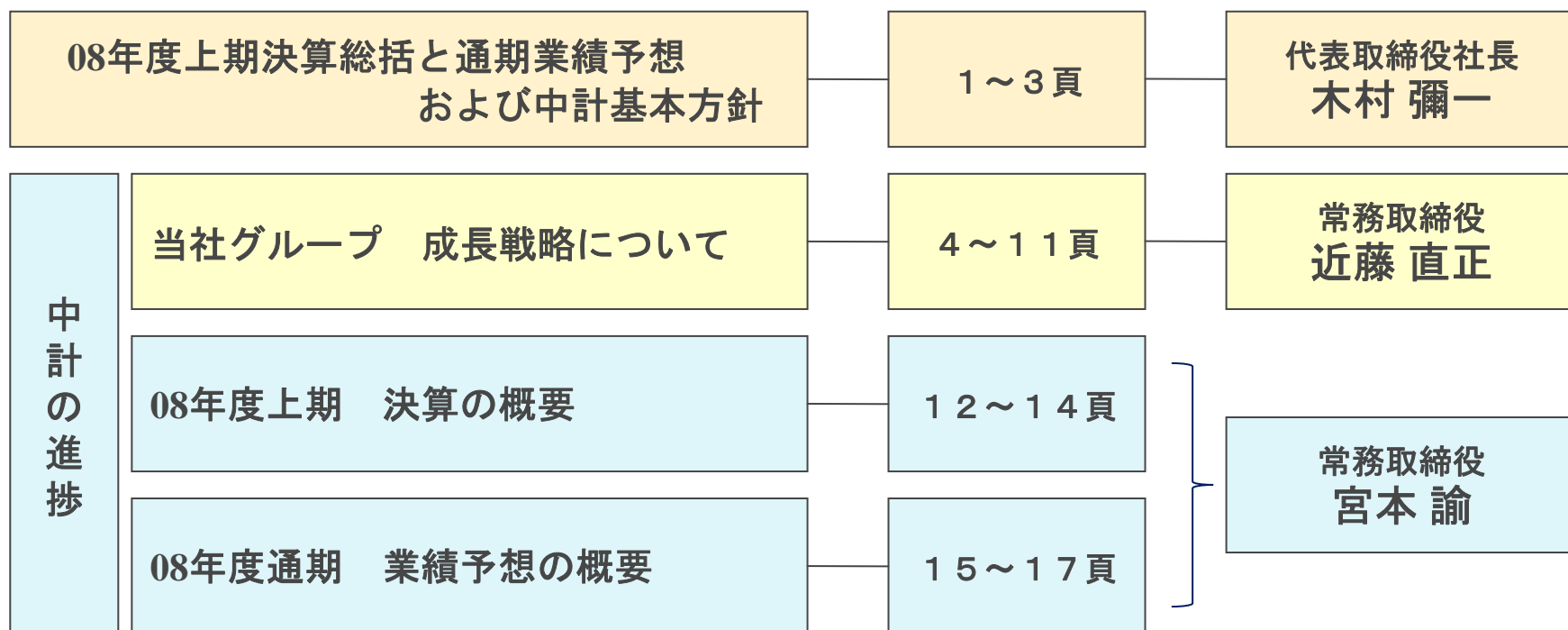
---

2008年11月6日

代表取締役社長：木村 彌一

常務取締役：近藤 直正、宮本 諭

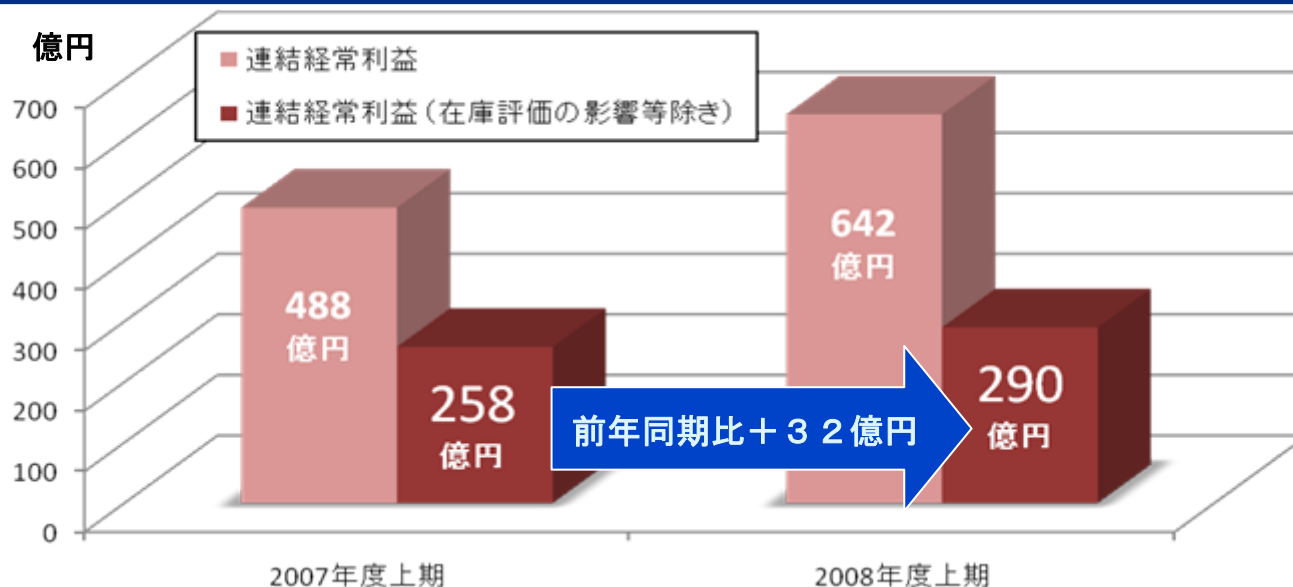
# 本日のご説明内容



# 【実績】2008年度上期 決算実績

## 総括

- ・原油価格の高騰および国内石油製品の需要減少
- ・石油事業は苦戦したが、石開事業での収益拡大で、連結全体では増益。



## 2008年度上期の決算のポイント

### 石油事業

輸出の成果、国内精製マージンの拡大はあったものの自家燃コストの増加により、前年同期比で減益。

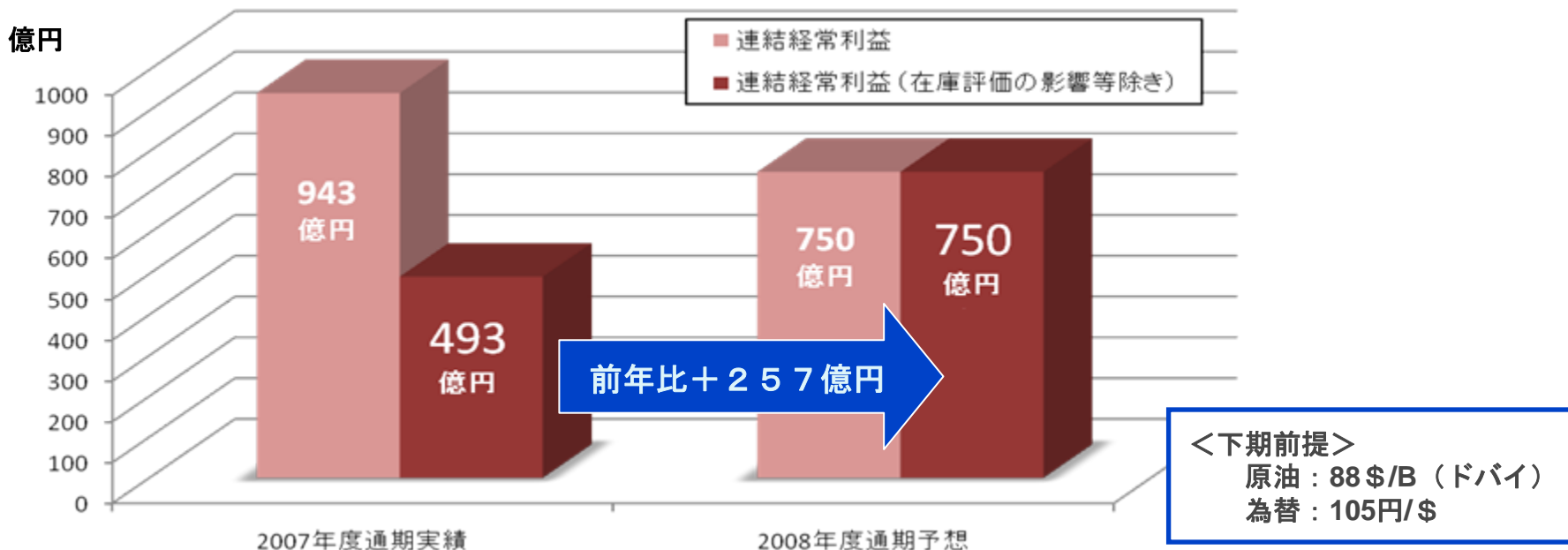
### 石油開発事業

原油価格高騰に伴い収益拡大。

## 【業績予想】2008年度通期 業績予想

総括

- ・原油価格の高止まりと国内の石油製品需要減少を想定
- ・各事業での収益拡大により、前年比で増益の計画



## 2008年度通期(下期)の経営方針

## 石油事業

海外販売(輸出)の拡大とともに、適正な市況の構築に努め、主体的にマージンの拡大を図ることで収益を拡大。

## 石油開発事業

原油価格高止まりの環境下、安定生産による収益拡大。

## 【中計】収益基盤の再構築と次の成長への布石

当社グループ経営資源を活かした企業価値最大化を追求

## 精製・販売

販路  
油種構成  
改善市況連動型  
フォーミュラ  
検討製油所の  
機動的  
需給対応海外販売  
拡大コーカー  
導入

石油化学

マージン拡大

石油開発

新規事業

将来  
キャッシュフロー  
極大化

IPIC

「財務体質の健全性」を維持しつつ「成長戦略への設備投資」を実施

## 産油国との信頼関係を基盤とした石油開発事業の推進

基本  
方針

- ・低リスク案件への投資
- ・コアエリア(アブダビ・カタール)、サブコアエリア(オーストラリア)に軸足を置く
- ・早期のキャッシュフロー回収
- ・オペレーターシップを重視し、技術やノウハウ、経験を蓄積

## アブダビ

<生産中> アブダビ石油・合同石油開発

## カタール

<生産中> カタール石油開発  
 <生産開始> A構造南部油田 2010年予定  
 <探鉱中> ブロック3 鉱区  
 <探鉱中> ブロック1 1 鉱区

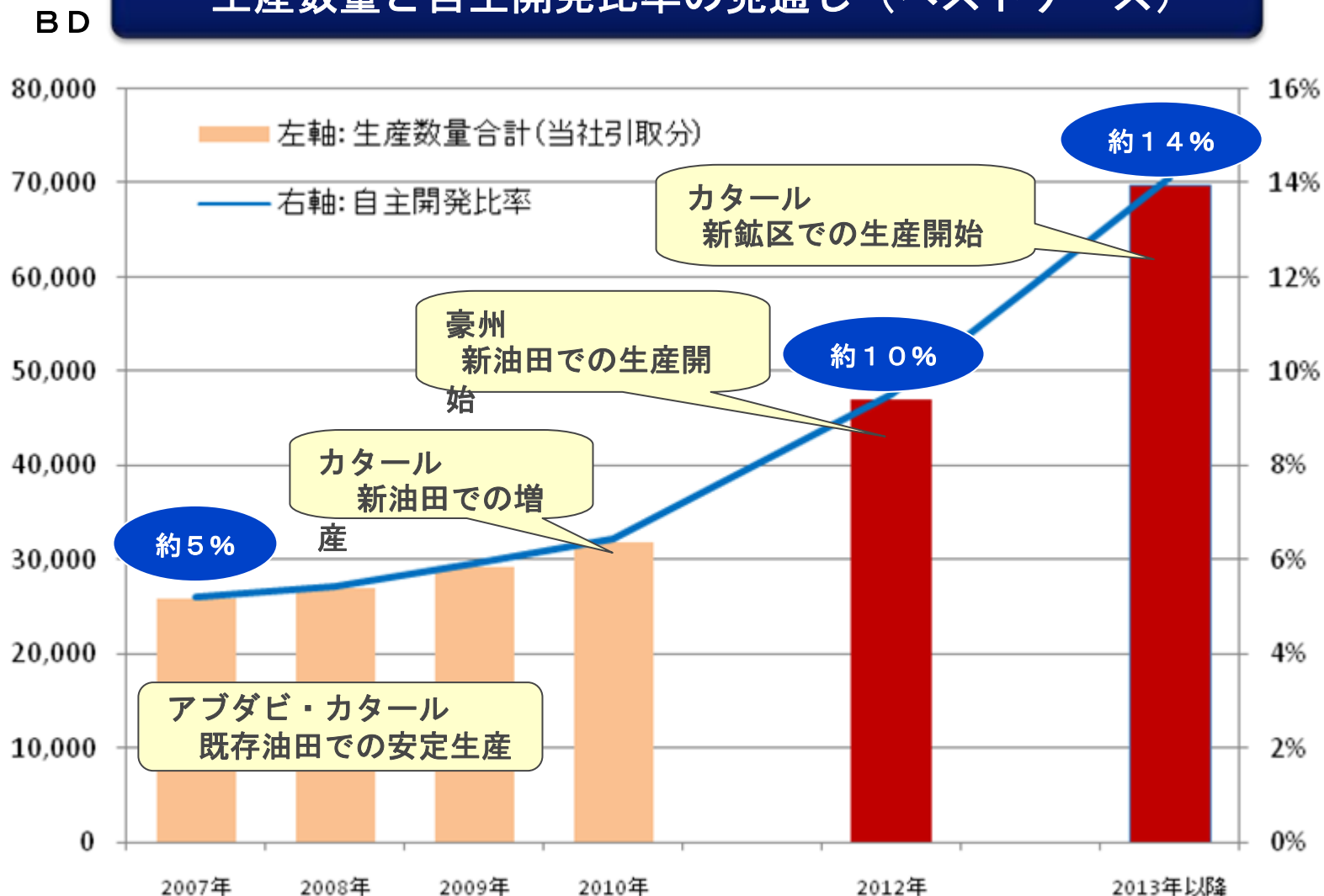
## オーストラリア

<生産開始> Audacious油田・Tenacious油田  
 <探鉱中> AC/P32 鉱区

IPICとの協業による新規開発案件

## 【中計施策】 成長戦略加速 石油開発事業②

## 生産数量と自主開発比率の見通し（ベストケース）



※輸入数量は2008年度以降も2007年度実績で変わらない想定で試算

## 製油所収益力の強化

中計効果：99億円(2010年度)

- ◆製油所の安全操業と安定供給の確保
- ◆堺製油所コーカーの最大活用により供給のベストミックスを追求

### ■メリットの考え方

- ★原料の重質化によるコスト削減：重軽格差拡大によるメリット
- ★製品の白油化による付加価値向上：白黒格差拡大によるメリット

### 重軽格差・白黒格差の推移

	2003	2004	2005	2006	2007	2008
重軽格差(\$/API/B)	0.14	0.44	0.72	0.74	0.74	1.03
白黒格差(\$/B)	8.0	22.5	27.0	32.0	32.1	50.7

重軽格差： サウジ産AELとAHの価格差  
 白黒格差： ジェット燃料と高硫黄重油の価格差



## 【中計施策】石油精製販売事業収益力の再強化－製油所競争力の強化②

### 高度化投資のメリットの考え方

#### 環境

原油価格高騰  
重軽格差拡大

製品白黒格差拡大

A重油、C重油の  
内需減退

#### コーカー(25,000b/d)

- ・原油の重質化 → 割安な原油調達
- ・C重油留分の分解



#### 軽油水添脱硫装置(25,000b/d)

- ・A重油留分⇒ジェット(灯油)・軽油  
※ガソリンは増産されない

### 「調達コストの削減」と「高付加価値製品の増産」

- 処理原油のAPIを1.6度低減（4製油所）  
APIを下げることにより、白油製品の生産量は変化なし。
- 国内4製油所トータルでの増産分 ⇒ 輸出  
既存販路に加え、中国を中心としたアジアマーケットも視野に販路拡大。

## 強靱な国内販売網の構築

中計効果：60億円(08-10年度)

## 良質なシェアの拡大によるマージン拡大

「強力なブランドと  
強靱な販売網」の構築

セルフ化、カード発券の継続

SS競争力の更なる強化

- ・ ブランド力強化による良質なシェア確保  
販社+ブランド中核店比率目標：51%
- ・ 販売促進プログラム  
「”ココロも満タンに”宣言」展開
- ・ セルフSS比率目標：30%
- ・ コスモ・ザ・カード有効枚数：334万枚
- ・ NV指数改善

## 卸売価格フォーミュラ

透明性・公平性の確保  
による価格改善



国内市況と海外市況とで裁定が働きつつあり  
市況連動型価格フォーミュラへの移行は業界全体の流れ

## 海外販売(輸出)拡大によるマージン拡大

- ◆国内の石油製品需要減への対応
- ◆世界の石油製品需要増に対応

■油種 中間留分（軽油、ジェット燃料、灯油）／ ガソリン輸出も検討

■仕向地 **当社の強み** 長期契約をベースとした海外販売

北米（現地に確保済みのタンクを活用した卸売り）

南米（エンドユーザー向けターム契約による持届け販売実施）

オセアニア（ターム契約）

※環境規制の厳しい地域で低硫黄のプレミアムを享受

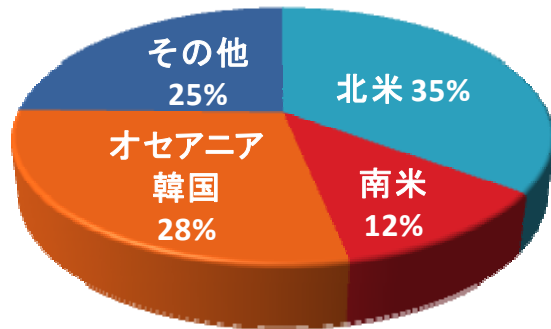
アジア市場

※今後著しい需要増が見込まれる地域もターゲット

# 【中計施策】石油精製販売事業の収益力再強化－海外販売の拡大②

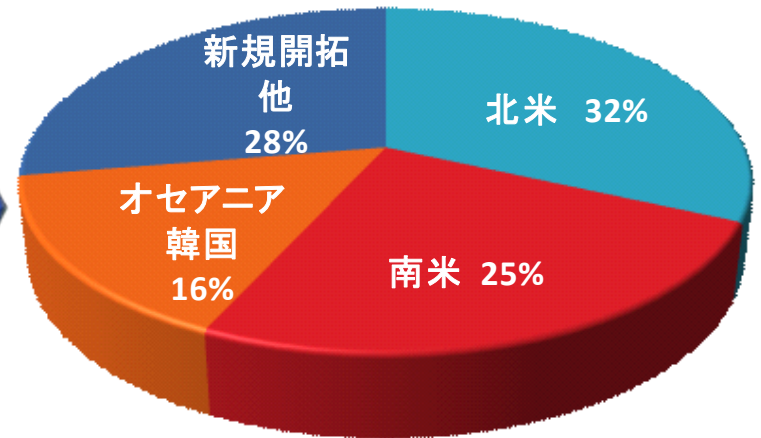
## 輸出数量、仕向け地

2007年度輸出実績 1,590千kl/年



250%  
増

2010年度輸出計画 4,000千kl/年



年度	2007年度 (実績)	2008/2009年 度	2010年度 (計画)
輸出能力 (千KL/年)	2,000	3,000	4,000
輸出計画 (千KL/年)	1,590	1,800/2,200	4,000
輸出比率* (概算)	約15%	約15/17%	約22%

\*輸出数量 (中間留分+ポンド) ÷ 原油処理量

## 石油化学事業での取り組み

### ■CMアロマ・コスモ松山石油

ミックスキシレン 30万トン／年 体制での安全・安定操業

### ■丸善石油化学

「機能化学品事業の戦略的取り組みによる安定収益基盤の構築」

### ■コスモ石油と丸善石油化学との協業深度化

……両社間検討チーム立ち上げ（2008年2月）

<<検討テーマ>>

- ①生産計画の統合
- ②大型共同投資



- ・石油製品から石化基礎原料への生産スウィングによる付加価値向上。
- ・効率化追求による収益力強化

### ■IPICグループ企業との連携による可能性を模索

## 【08年度上期実績】連結損益ハイライト 前年同期比

	08年度上期	07年度上期	前年同期比
連結経常利益	642億円	488億円	154億円
(在庫評価・ 低価法適用の影響)	(352億円)	(230億円)	(122億円)
NET連結経常利益	290億円	258億円	32億円
受入原油価格 為替	原油：117.0\$/B 為替：105.4円/\$	原油：66.7\$/B 為替：119.8円/\$	原油：50.3\$/B 為替：△14.4円/\$

## 連結経常利益 セグメント別内訳

	08年度上期	07年度上期	前年同期比
石油事業	352億円	299億円	53億円
(在庫評価・ 低価法適用の影響)	(340億円)	(230億円)	(110億円)
(石油化学部門)	(31億円)	(60億円)	(△29億円)
NET石油事業	△19億円	9億円	△28億円
石油開発事業	295億円	219億円	76億円
その他事業他	△5億円	△30億円	25億円
(在庫評価・ 低価法適用の影響)	(12億円)	—	(12億円)

単位：億円



## 【08年度上期実績】連結 C/F および B/Sの概要

単位:億円

	実績	前期末(08/3月末)比
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 649	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 297	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,102	-
期末のキャッシュ残高	970	143

	実績 (08/9月末)	前期末 (08/3月末)	増減
総資産	18,060	16,279	1,781
純資産	4,933	4,697	236
自己資本	4,656	4,429	227
自己資本比率	25.8%	27.2%	1.4ポイント悪化
有利子負債(ゼロクーポン社債を含む)	6,364	5,216	1,148
有利子負債依存度	35.2%	32.0%	3.2ポイント悪化
D/Eレシオ(倍)	1.4	1.2	0.2ポイント悪化
ネット有利子負債(ゼロクーポン社債を含む)※	5,394	4,389	1,005
有利子負債依存度	29.9%	27.0%	2.9ポイント悪化
D/Eレシオ(倍)	1.2	1.0	0.2ポイント悪化

※有利子負債総額から現預金および短期運用資金残高を控除したものの



## 【08年度通期業績予想】連結業績予想ハイライト 前年比

	08年度通期予想	07年度通期実績	前年比
連結経常利益	750億円	943億円	△193億円
在庫評価の影響	0億円	450億円	△450億円
NET連結経常利益	750億円	493億円	257億円
業績予想の前提	原油:102.5\$/B 為替:105.2円/\$	原油:77.1\$/B 為替:114.5円/\$	原油:25.4\$/B 為替:△9.3円/\$

## ■ 08下期前提

原油:88.0\$/B(フバイ)  
為替:105.0円/\$

■ 感応度については

補足1

参照

## 連結経常利益 セグメント別内訳

	08年度通期予想	07年度通期実績	前年比
石油事業	125億円	465億円	△340億円
(在庫評価の影響)	(0億円)	(450億円)	(△450億円)
(石油化学部門)	(51億円)	(90億円)	(△39億円)
NET石油事業	74億円	△75億円	149億円
石油開発事業	600億円	469億円	131億円
その他事業他	25億円	9億円	16億円

【08年度通期業績予想】連結経常利益 前年比 増減分析

単位：億円



## 【08年度上期実績・08年度通期見通し】連結 設備投資の概要

## 【08年度上期実績】

単位:億円

## ＜設備投資・減価償却費等＞

	08上期実績	前年同期比
設備投資	309	135
減価償却費等	232	22

## ＜設備投資:セグメント別＞

	08上期実績	07上期実績	前年同期比
石油事業	245	125	120
石油精製・販売	212	117	95
石油化学	7	2	5
その他	26	6	20
石油開発事業	63	48	15
その他事業	1	1	0
合計	309	174	135

## 【08年度通期見通し】

## ＜設備投資・減価償却費等＞

	08通期見通	前年比
設備投資	780	290
減価償却費等	431	3

## ＜設備投資:セグメント別＞

	08通期見通	07通期実績	前年比
石油事業	595	351	244
石油精製・販売	553	328	225
石油化学	20	10	10
その他	22	13	9
石油開発事業	184	137	47
その他事業	1	2	△1
合計	780	490	290

## 補足資料

1. 【実績・業績予想前提】 原油コスト・処理量、稼働率、感応度、原油生産数量
2. 【実績・業績予想前提】 販売数量
3. 【実績・業績予想】 石油単体 中計総括表
4. 【08年度上期実績】 セグメント別実績：前年同期比
5. 【08年度通期業績予想】 セグメント別予想：前年比
6. 【08年度上期実績】 セルフSS展開／ザ・カード発券状況
7. 【08年度上期実績】 人員数、油槽所数、SS数、カード枚数推移
8. 【08年度通期業績予想】 連結経常利益：前回公表比 増減分析
9. 【08年度通期業績予想】 セグメント別予想：前回公表比
10. 軽油輸出の実績、マージン環境
11. 石油化学事業 ミックスキシレン市況

## 【実績・業績予想前提】原油コスト・処理量、稼働率、感応度、原油生産数量

## &lt;&lt;原油コスト・処理量、稼働率&gt;&gt;

		08上期実績	前年同期比		通期前提
受入原油	原油(FOB)\$/BBL	117.01	50.28	-	102.51 (下期 88.00)
	為替レート¥/\$	105.37	△ 14.44	-	105.19 (下期 105.0)
	受入原油代(税込)¥/KL	81,678	27,965	-	-
原油処理	原油処理量千KL	13,702	16	100.1%	99.9%
	トッパー稼働率(CD)	74.2%	0.1%	-	78.4%
	トッパー稼働率(SD) ※1	86.6%	0.4%	-	88.3%

※1 SD 定期整備等の影響を除いた稼働率

## &lt;&lt;感応度&gt;&gt;

原油+1\$/B	石油事業	: +16億円	石油開発事業	: +3億円
為替+1円/\$	石油事業	: +13億円	石油開発事業	: +2億円

## &lt;&lt;原油生産数量&gt;&gt;

		08上期実績	出資比率
石油開発会社生産量(B/D) ※2	アブダビ石油	21,857	63.0%
	カタール石油開発	6,100	85.8%
	合同石油開発	13,942	35.0%

※2 生産量 プロジェクト会社の期中平均生産量。  
12月決算会社のため生産期間は1-6月。

## 【実績・業績予想前提】販売数量

&lt;&lt;販売数量&gt;&gt;

(千KL)

		08上期実績	07上期実績	増減	前年同期比	08通期前提(前年比)
国内販売数量	ガソリン	3,298	3,541	△ 243	93.1%	93.9%
	灯油	698	742	△ 44	94.1%	92.8%
	軽油	2,368	2,393	△ 24	99.0%	98.2%
	A重油	1,188	1,206	△ 18	98.5%	94.8%
	4品計	7,552	7,882	△ 330	95.8%	95.1%
	ナフサ	2,941	3,413	△ 473	86.2%	93.1%
	ジェット	185	222	△ 38	83.1%	90.6%
	C重油	1,591	1,631	△ 40	97.5%	98.2%
	内電力CFO	885	807	78	109.7%	104.3%
	計	12,269	13,149	△ 880	93.3%	94.9%
中間留分輸出数量	軽油	797	639	158	124.7%	118.0%
	灯油/JET	101	226	△ 125	44.8%	59.3%
	計	898	865	33	103.8%	107.7%
保税販売他	JET	829	847	△ 18	97.9%	94.3%
	CFO	391	371	19	105.2%	93.6%
	その他	88	81	7	108.6%	159.3%
	計	1,308	1,285	23	101.8%	97.4%
バーター・その他	5,414	6,029	△ 615	89.8%	89.0%	
総販売数量	19,888	21,328	△ 1,440	93.3%	94.1%	

## 【実績・業績予想】石油単体 中計総括表

項目	部門	08FY 当初 計画	08上期 実績	08下期 予想	08FY 予想	達成率
		(億円)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)
合理化	供給	6	1	5	6	100%
	販売	3	4	1	5	167%
	その他	12	4	7	11	89%
	小計	21	9	13	22	103%
付加価値 向上	供給	0	0	0	0	-
	販売	20	10	10	20	100%
	その他	0	0	0	0	-
	小計	20	10	10	20	100%
総合計		41	19	23	42	101%

## 【08年度上期実績】セグメント別実績：前年同期比

## &lt;&lt;セグメント別実績&gt;&gt;

単位：億円

	売上高		営業利益		経常利益		経常利益 (在庫評価影響等除き)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比
石油事業	19,677	4,031	362	81	352	53	12	△ 57
石油開発事業	479	121	296	114	295	76	295	76
その他の事業	450	60	9	1	10	0	10	0
消去他	△ 461	△ 78	△ 8	28	△ 15	25	△ 27	13
合計	20,145	4,134	659	224	642	154	290	32

- ※ 石油事業の内に、在庫評価の影響額 673億円（前年同期比+443億円）を含む。
- ※ 石油事業の内に、低価法の影響△333億円（前年同期比△333億円）を含む。
- ※ 石油事業の内に、石油化学会社の経常利益 31億円（前年同期比△29億円）を含む。

石油事業 : コスモ石油、コスモ石油販売、コスモ石油ガス、コスモ石油ルブリカンツ他  
 内、石油化学 : コスモ松山石油、CMアロマ、丸善石油化学(持分法適用会社)  
 石油開発事業 : アブダビ石油、カタール石油開発、合同石油開発(持分法適用会社)他  
 その他事業 : コスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービス他



## 【08年度通期業績予想】セグメント別予想：前年比

## ＜＜セグメント別業績予想＞＞

単位：億円

	売上高		営業利益		経常利益		経常利益 (在庫評価影響除き)	
		前年比		前年比		前年比		前年比
石油事業	39,481	5,059	172	△ 221	125	△ 340	125	110
石油開発事業	1,005	164	578	143	600	131	600	131
その他の事業	896	△ 94	13	△ 13	15	△ 14	15	△ 14
消去他	△ 1,082	△ 60	17	33	10	30	10	30
合計	40,300	5,069	780	△ 58	750	△ 193	750	257

- ※ 石油事業の内に、在庫評価の影響額 0億円（前年比△450億円）を含む。
- ※ 石油事業の内に、石油化学会社の経常利益51億円（前年比△39億円）を含む。

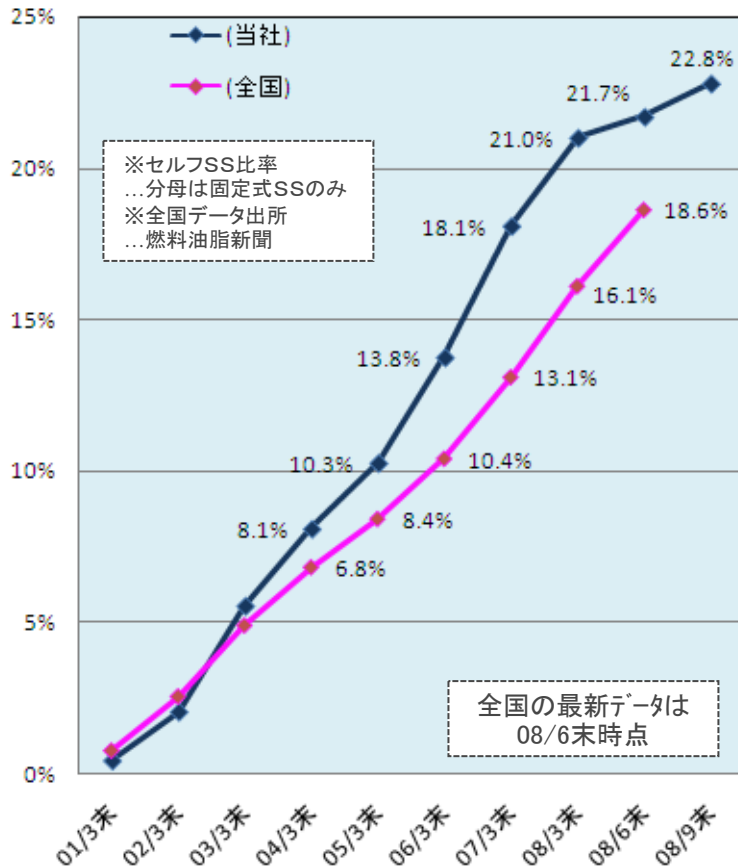
石油事業 : コスモ石油、コスモ石油販売、コスモ石油ガス、コスモ石油ルブリカンツ他  
 内、石油化学 : コスモ松山石油、CMアロマ、丸善石油化学(持分法適用会社)  
 石油開発事業 : アブダビ石油、カタール石油開発、合同石油開発(持分法適用会社)他  
 その他事業 : コスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービス他

【08年度上期実績】セルフSS展開／ザ・カード発券状況

セルフSS展開

08年9月末現在:912SS  
 (08年4-9月展開数...45SS)  
 セルフSS比率...22.8%

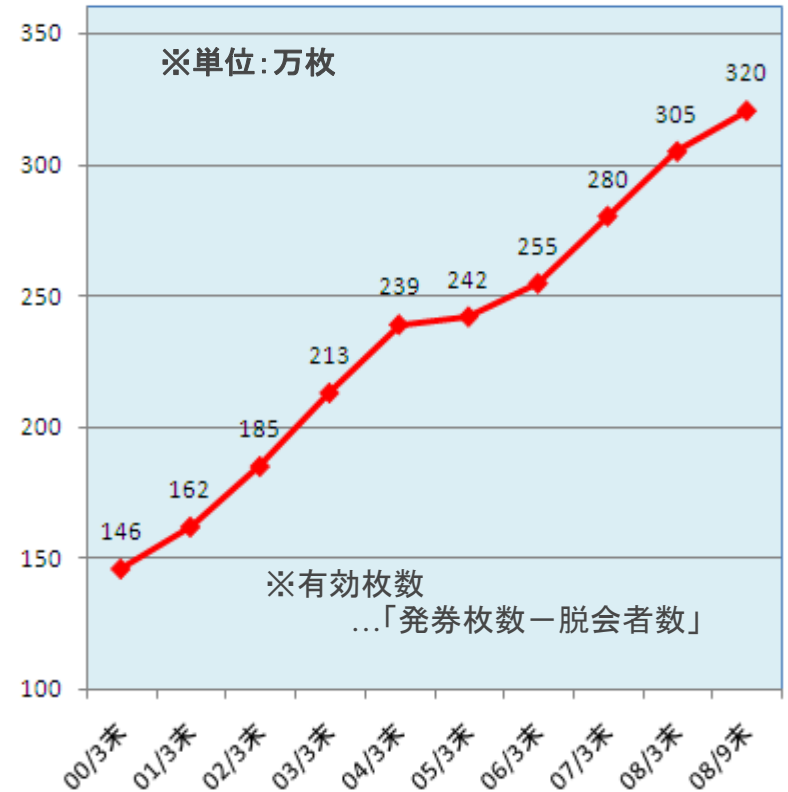
セルフSS件数比率推移



ザ・カード発券

08年9月末現在:320万枚  
 (08年4-9月増加数...15万枚)

ザ・カード有効枚数推移



## 【08年度上期実績】人員数、油槽所数、SS数、カード枚数推移

## 人員数推移

	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度9月末
石油単体	1,892	1,837	1,764	1,729	1,718	1,916	1,957	2,100
グループ	3,978	3,736	3,565	3,480	3,451	3,335	3,299	3,358
※グループ:石油単体+出向								※各年度3月末時点

## 油槽所数推移

	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度9月末
DT数	39	39	38	38	38	38	38	38
※各年度3月末時点								

## 運営者別SS数推移(可搬式を含む)

	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度9月末
販社	531	493	513	1,053	1,178	1,110	1,092	1,046
特約店	5,010	4,779	4,529	3,758	3,468	3,306	3,086	3,005
合計	5,541	5,272	5,042	4,811	4,646	4,416	4,178	4,051
※05年度までは12月末時点とし、06年度からは3月末時点								

## 上記のうち、セルフSS数

	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度9月末
販社	66	159	255	295	370	463	507	520
特約店	43	126	143	188	256	326	360	392
合計	109	285	398	483	626	789	867	912
※各年度3月末時点								

## コスモ・ザ・カード枚数推移(06年度よりオーパスも含む数値)

	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度9月末
有効枚数(万枚)	185	213	239	242	255	280	305	320
※各年度3月末時点								

単位：億円



## 【08年度通期業績予想】セグメント別予想: 前回公表比

## &lt;&lt;セグメント別予想&gt;&gt;

単位: 億円

	売上高		営業利益		経常利益		経常利益 (在庫評価影響除き)	
		前回公表比		前回公表比		前回公表比		前回公表比
石油事業	39,481	3,431	172	△ 8	125	10	125	10
石油開発事業	1,005	15	578	33	600	15	600	15
その他の事業	896	△ 44	13	△ 2	15	△ 5	15	△ 5
消去他	△ 1,082	△ 102	17	7	10	0	10	0
合計	40,300	3,300	780	30	750	20	750	20

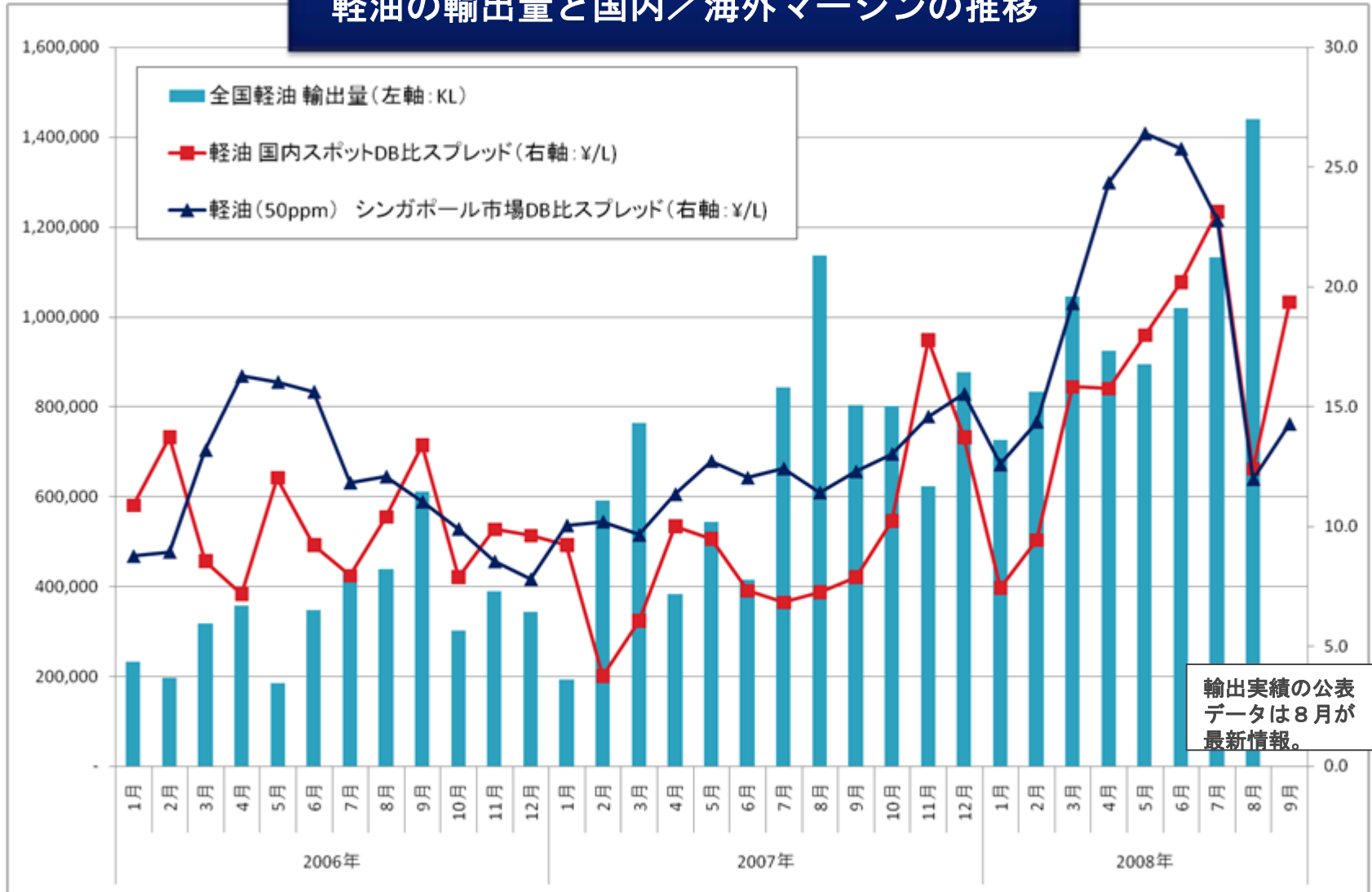
※ 石油事業の内に、在庫評価の影響額 0億円（前回公表比±0億円）を含む。

※ 石油事業の内に、石油化学会社の経常利益51億円（前回公表比△21億円）を含む。

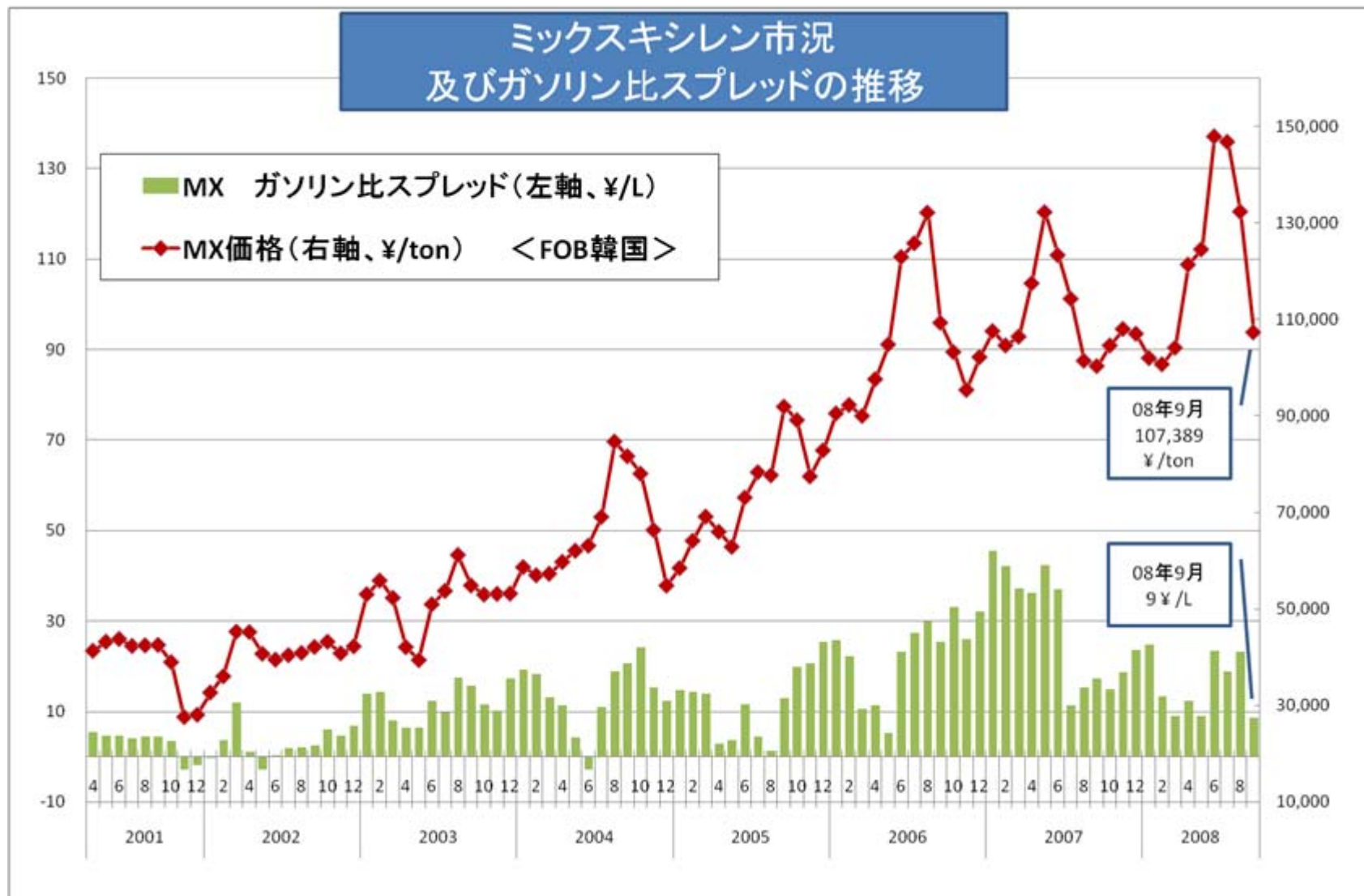
- 石油事業 : コスモ石油、コスモ石油販売、コスモ石油ガス、コスモ石油ルブリカンツ他  
 内、石油化学 : コスモ松山石油、CMアロマ、丸善石油化学(持分法適用会社)  
 石油開発事業 : アブダビ石油、カタール石油開発、合同石油開発(持分法適用会社)他  
 その他事業 : コスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービス他

# 軽油輸出の実績、マージン環境

## 軽油の輸出量と国内／海外マージンの推移



## 石油化学事業 ミックスキシレン市況



## 見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。